

10.22 燃料増送阻止 スト

成田拠点でスト貫徹す!

日刊
動労千葉

79.10.23
No. 255

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆)三三三・七二〇七

動労千葉は、10・22半日ストを動労「本部」反動集団の「スト断固反対」なる前代未聞のスト破壊策動を完全に粉砕し、成田拠点において万全の闘争体制をもって敢然と闘い抜いた。この10・22半日ストライキは、新生動労千葉のはじめての独自闘争として成田支部を中心として一四〇〇組合員一丸となつてかちとられたものである。この10・21〜22闘争を第一波とするジェット燃料増送阻止・備蓄ゼロ・国鉄三五万人体制攻撃粉砕の闘いを一〜一二月段階での第二波、第三波闘争として断固闘い抜こう。

熱気あふれるスト突入前夜集会!

10・22スト貫徹動労千葉総決起集会は、二一日一八時三〇分より、成田運転区庁舎前で成田支部組合員をはじめ全支部から約五〇〇名が結集してスト突入前夜集会にふさわしく、又、昼間の三里塚現地集会・デモの圧倒的成功をも引きつぎ、熱気あふれる集会としてかちとられた。

集会には、三里塚反対同盟から内田行動隊長をはじめ同盟幹部の皆さん、関西新空港反対同盟の永井さん、さらには、先の衆院選で連続当選をはたした小川国彦衆院議員、全金本山支部、全港湾建設支部青年部、全通東京空港支部の代表など多くの仲間が激励にかけつけてくれた。

一九時ごろからは、国鉄成田駅前広場をピシッと埋めつくして、「動労ジェット闘争支援共闘会議」による支援集会と大情宣行動がくりひろげられ、約一時間半にわたって二五〇〇名を越す支援・乗客・市民がこれに参加し、権力・公安も逃げだしてしまふ熱気につつまれた。

動労千葉からは、関川委員長の10・22スト突入の決意を込めたあいさつ、中江前本部副委員長のあいさつ、つづいて、中野書記長から10・22ストの闘いの目標と意義について、

①労農連帯の一層の推進をもってジェット燃料増送阻止・二期工事阻止の闘い。

②10・21〜22闘争を第一波として、年内三波の闘いを貫徹し、国鉄三五万人体制合理化粉砕の突破口を切り拓く。

③労働運動の右傾化に抗し、八〇年代にむけ戦闘的再生をかちとる闘い。などの点が明らかにされ、全体で確認した。

つづいて片岡(津田沼)、松崎(新小岩)支部長からの決意表明の後、最後に、日暮成田支部長から「この間『本部』の組織破壊攻撃を一つ一つ粉砕し、闘ってきた。新生動労千葉の最初の闘いを成田支部は、万全の体制で貫徹する決意です」との力強い決意表明がなされた。

そして、ただちに、構内デモ、シュプレヒコール、団結ガンバローを全体でかちとり、各支部からのろう城動員者をおこし、二〇時三〇分、あすの減産闘争成功にむけて、各支部にちっていった。

10・22スト、燃料列車一本も動かさず! 燃料備蓄は、ますます減少

「前日二一日の運休と今日の動労千葉のストライキでジェット燃料備蓄が四日分に減少、つなわりの成田空港。動労千葉は、今後も闘いを表明している」

一〇月二二日、朝七時のNHKテレビニュースが、動労千葉、われわれの半日ストライキを大々的に報道。成田運転区の乗務員詰所に前夜からろう城していた成田支部をはじめ、各支部からの動員者から期せずして、「オー/ヤッタ!!」かん声と拍手がわき上る。動労「本部」反動集団による様々な妨害とスト破壊策動を敢然とはねのけ自らの闘いにおいてジェット燃料列車をストップさせたのだ。



10・22スト貫徹を突破口に第二波、第三波闘争に決起しよう!

その後、九時すぎより、約一時間にわたる中江さんの「動労の闘争戦術のうつりかわり、特に順法闘争の歴史について」の講演を受け、一時三〇分より、ストライキ集約集会をかちとり、10・22スト第一波闘争の貫徹を全体で確認したのである。われわれは、今後予想される国鉄当局・権力及び動労「本部」反動集団からの様々な弾圧・組織破壊攻撃をも一四〇〇組合員一丸となつての闘いをもってはねのけ、第二波、第三波闘争に決起しよう。